

2020年までにおもてなし立県を

開倫塾

塾長 林明夫

おもてなしを合い言葉に、日本は 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの招致に成功した。2020 年までには 7 年間ある。初めて日本を訪れる外国人をおもてなしの精神でお迎えする準備を、栃木県でも 1 日も早くスタートしたい。地域全体の国際競争力を強化するという考えで戦略をもって実行すれば、栃木県の経済活性化にも直結する。

ところで、初めて日本を訪れる外国人にとっての最大のおもてなしは、日本での移動、滞在が快適であることだ。

例えば、鉄道やバス、レンタカーなどで栃木県を訪れる外国人が困り果てるのは、日本語と同じ大きさでの英語の表示があまりにも少ないことだ。アルファベットの表示でも、日本語をただローマ字に直しただけでは何の意味かわからずに困るという。鉄道、バス、タクシー、レンタカー、道路、駅、観光地だけではなく、商店、大型商業施設、県庁、市役所、町役場、医院、歯科医院、病院、保健所、警察、検察庁、裁判所など外国人が来ることが予想されるありとあらゆる施設では、日本語と同じ大きさで内容のわかる英語表示を 2020 年までに 7 年かけて行うことを提言したい。

また、そこで働く方々は自分の仕事について外国人とコミュニケーションできるだけの英語能力を 7 年かけて身に付けることも提言したい。

更に、それらすべての施設のホームページに英語やいくつかの言語版を 7 年かけて整備することも提言したい。

私は年に何回か外国に出掛け、現地の方々と少人数で意見交換をすることが多い。私が現地の言語が理解できないとわかると、その瞬間、私のためにその場のことばが英語になる。これが親切というものだ。日本語がよくできない外国人が会話の仲間に加わったとき、何の躊躇もなくパッと英語に切り替わることがおもてなしだと思う。

時間はあと 7 年もある。初めて日本を訪れる外国人にとっての本当のおもてなしとは何かを栃木県や各市町をあげて考え、戦略を立てて少しずつでも実行に移すことができれば素晴らしいと思う。知事や市町長、地域の方々の強烈なリーダーシップを期待したい。